

## 第2回 環境活動支援センター業務外部評価委員会 議事要旨

- 【日時】 2008年3月26日(水) 13:00~15:00
- 【会場】 こうち男女共同参画センター・ソーレ
- 【出席委員】 風間千晶、坂本世津夫、田島真紀、長瀬順一、岩田 護
- 【出席者】 高知県循環型社会推進課：西尾健一(課長)、竹崎智子(チーフ)、橋田麗帆(主査)  
 特定非営利活動法人環境の杜こうち：石川妙子(理事長)、  
 兼松方彦(事務局長兼環境活動支援センター長)、上田史、近藤純次(事務局)

特定非営利活動法人環境の杜こうち 石川理事長の挨拶、山本委員異動のため2008年1月1日より新たに就任した岩田委員の紹介ののち、質疑応答、意見交換を行った。

### 1. 議長選出

坂本世津夫委員を選出。

### 2. 議題

#### (1) 平成20年度事業計画について

高知県循環型社会推進課 西尾課長より、平成20年度高知県委託業務の概要について説明し、質疑応答を行った。概要は以下のとおり。

分野	質問	返 答
地球温暖化対策事業について	高知県の二酸化炭素排出量算出における森林による吸収について。カーボンオフセットは複数の取組みについて利用できないと定義されている。京都議定書の目標である6%削減のうち、森林吸収源の3.8%は国内の森林とされているが、県のみだからといって、県の吸収源だといえるのか。	吸収源は国が3.8%を持っており、林野庁がそれを各都道府県にそれぞれ割り振りを決め、整備森林面積を割り当てている。県としては割り振られた整備森林面積を期間内に整備することを計画に入れ、国がそれらを積み上げて国の削減量とする。(県)

事務局より、事業計画について説明し、質疑応答、意見交換を行った。概要は以下のとおり。

分野	意見及び質問	返 答
全体	かなり業務が増えているようであり、3年目に向かっての体制づくり、マネジメントが課題になるのではないか。	
地球温暖化防止県民会議について	県民会議を設置することは県の地球温暖化防止推進計画にも書かれているのか。	計画の中で目標を定めており、その手段として県民会議をつくと記している。(県)
	県民会議の事務局を環境活動支援センターに置くということか。県民会議の事務局と言うと県に置くイメージがあるが、事業内容的にセンターに置く必要があるのか。	今のところ、予算上は環境の杜こうちで事務局を立ち上げ、調整を図って会議を実施する計画になっている。(事務局)
		県が従来付き合いのある市町村や商工会等既存の団体とのつながりを考慮すれば、県の方で管理できる者が動くのが自然であるが、民間の活動団体に関しては支援センターが中心となって調整し、事務局は会議の運営という形でその両方に関わるというイメージを持っている(県)

地球温暖化防止県民会議について	まずやるべきことは、早めに事務局体制を整備し、県民会議の目的、骨組みを明確に摺り合わせた上で、具体的な活動計画、目標値を積み上げて、県民会議を動かしていくことだろう。県は、県民や国に対して、成果目標・数値目標のようなものを持つべきだと思う。	県と環境の杜こうちの間で方向性は共有されているが、実際のすすめ方、何をやるかについてはまだ議論されておらず、それぞれの思いの中にある状態。早急に議論し、カタチにすることが高知県としての指標になると考える。(事務局)
事務局体制について	県民会議運営のための人員についてはどのような計画か。	<p>県民会議のアウトソーシング費用は1人分の人件費と事業費である。立ち上げの部分を支援するために、県の職員を派遣することを考えていたが、県の条例上、立ち上げのための限定的な支援についての位置づけがなく、現役職員を派遣することができない。代替策として、業務内容的に県という立場の人が担ったほうが良いという考えで、環境の杜こうちに対し、県の退職者をその任務につけるという提案をさせてもらった。(県)</p> <p>当初環境の杜こうちの方から県に対して現役職員の派遣をお願いし予算立てもしていただいていた。しかしその後、県の退職者の採用を提案される中で、その採用過程について県からの説明が不十分ではないかという意見が運営委員や理事の中にあり、現在調整中である。(事務局)</p>
	県がNPOと連携して協働で事業を行うということはお互いに役割分担をするということだが、県民会議について、県からは立ち上げの支援だけでよいのか。市町村に働きかけて行くとすると、県の役割が大きくなってくると思うが、もっと県の人動いたほうがよいのでは。今後協働のあり方として、県はNPO等の団体に職員を派遣することも考えていく必要があるのではないか。	県民会議は行政の仕事だが、今回は幅広い方々にかかわっていただきたいので、環境の杜こうちと一緒にやらねばならない。事業がうまく走り出せばアウトソーシング事業に加えてもよいし、事務局を県に移してもよいと考える。そこまでの間をなんとかしたいと考え、県の意向をわかって動ける人を入れてはどうかということで、予算をとり、声をかけた。(県)
	既に採用予定者に声をかけているというのは問題だと思う。公募をした方がよいのではないか。公務員経験者だけではなく民間の方からも募集していただきたいと思う。	公募して選んではどうかという提案もさせていただいた。県民会議を動かしたいという点では県と同意見なので、環境の杜こうちとして採用過程を外部の方々に説明できるような材料を下さいと県にお願いしている。(事務局)
	採用予定者は一般の方々にはできないような県の役割を担うために採用されるということであるなら、それがどのような役割なのかということ、一般の方々や理事の方々に理解してもらえるよう説明できる資料が必要だろう。できるだけ早く動く仕組みの県民会議をつくる、そのための体制づくりを早く決めて行ってほしい。	3月30日に臨時理事会を開くので、そこで文化環境部長と話して、説明できるようにしたい。(事務局)

地球温暖化防止活動推進員等研修事業について	高知県地球温暖化防止活動推進員としての3年間の委嘱終了後は、環境カウンセラーを目指してもらったり、エコ検定の取得を勧めていただきたい。また、パソコン教室へ優先的に通わせるなど、推進員のスキルアップへの協力をお願いしたい。	研修内容については20年度からは任意で受けられるような、個人に合わせた研修を実施できないかと検討している。中身についてはこれから議論するので、またご意見をください。(事務局)
その他	コツコツカツコツというのはどういう意味か。	CO2(コツ)に勝つコツ、という意味と、環境問題というのは急には変わらないものなので、コツコツやるのが勝つコツ、地道にやりましょうというメッセージを兼ねて使っている。(事務局)

議長が平成20年度事業計画について承認を求め、賛成多数で承認された。

## (2) 総評

今回は3月末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。来年度から事業も増えてきており、我々も評価と同時に支援もしなければと感じています。今回の問題点については、理事会でよく議論し、詰めていただきたい。非常にタイミングのいい時期に県民運動をスタートさせようとしているので、県民にどンドンアピールし、情報発信すると共に、早く動ける体制作りを1ヶ月ぐらいで整えて、事業にとりかかっていたきたい。そのためにわれわれ委員も側面から支援できることは支援していきたいと思います。

## 4. 閉会

議長が閉会の挨拶をして、環境活動支援センター業務外部評価委員会が閉会した。